



二月 (平)

きさらぎ
如月

参宿

(二月四日立春の節より)
月命甲寅八白土星の月
暗剣殺東北方

旧正月小
二月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出	月入	満潮	干潮
1日	水	かのえとら	九紫	福井永平寺涅槃会損心(7日迄)、不成就日	十一	大安	のぞく	参	月とく	6.41	17.08	12.58	3.21
2日	木	かのと	一白	尾鷲まつり(1日〜5日)、一粒万倍日	十二	赤口	みつ	井		6.41	17.09	13.46	4.17
3日	金	みづのえとら	二黒	節分、豆まき、奈良春日大社万灯籠	十三	先勝	たいら	鬼	大みょう	6.40	17.10	14.39	4.17
4日	土	みづのとみ	三碧	立春一四時四三分、天一天上	十四	友引	たいら	柳	ぢう日	6.39	17.11	15.36	5.09
5日	日	きのえうま	四緑	初午、旧小正月、笠間稲荷初午祭、京都伏見稲荷初午祭、一粒万倍日	十五	先負	さだん	星	神よし	6.38	17.12	16.35	6.33
6日	月	きのとひつじ	五黄	〇望三時二十九分、新宮神倉神社火祭	十六	佛滅	とる	張	大みょう	6.37	17.13	17.34	7.07
7日	火	ひのえさる	六白	北方領土の日	十七	大安	やぶる	翼	月とく	6.36	17.14	18.33	7.36
8日	水	ひのと	七赤	こと始め、針供養	十八	赤口	あやぶ	軫	十し	6.36	17.15	19.31	8.02
9日	木	つちのえいぬ	八白	不成就日	十九	先勝	なる	角	●	6.35	17.16	20.29	8.26
10日	金	つちのと	九紫	旧二十日正月、加賀首生石部祭、福島信夫三山眺参り、三隣亡	廿	友引	おさん	亢	母倉	6.34	17.17	21.28	8.50
11日	土	かのえ	ね一白	〇建国記念の日、奈良橿原神宮例祭、水戸梅まつり(3月19日迄)	廿一	先負	ひらく	氏	母倉	6.33	17.18	22.28	9.14
12日	日	かのと	二黒	一粒万倍日	廿二	佛滅	とる	房	月とく	6.32	17.19	23.31	9.41
13日	月	みづのえとら	三碧		廿三	大安	たつ	心	大みょう	6.31	17.20	—	10.10
14日	火	みづのと	四緑	〇下弦一時〇一分、聖バレンタインデー、奈良長谷寺だだ押し	廿四	赤口	のぞく	尾		6.30	17.21	0.38	10.46

暦日上、二月初頭には「立春」という春めいた節日が設けられているが、気候的に温かいのは、雪または冷雨の日が多く、まだまだ寒波、寒風の荒れ狂うときである。
〔冠〕とくにこの項に入れることもないが、「立春」は陰暦の正月で、太陰太陽暦を使用する東洋の古い上の新年の起点とされている。したがって表紙裏の年齢早見表にも説明があるように、立春前日の節分までは前年の生まれ年になる。この月は一カ月最少日の特異月で、しかもほぼ四年に一回閏日がある。
〔婚〕婚礼に直接関係ないが、十四日は「聖バレンタインデー」といい、欧米ではこの日、女性から男性にプロポーズをしてもいいという風習がある。
もともとバレンチヌス司教の殉教の日であるが、これにギリシア神話の女神のロマンスが重なったものらしい。最近ではわが国でも

15日	水	きのえ	たつ	五黄	廿五	先勝	みつ	箕	大みょう	6.29	17.22	1.47	11.29
16日	木	きのと	み	六白	廿六	友引	たいら	斗	神よし	6.27	17.23	2.57	12.13
17日	金	ひのえ	うま	七赤	廿七	先負	さだん	牛	神よし	6.26	17.24	4.04	13.28
18日	土	ひのと	つじ	八白	廿八	佛滅	とる	女	神よし	6.25	17.25	5.03	14.42
19日	日	つちのえさる	九紫	雨水七時三十分	廿九	大安	やぶる	虚		6.24	17.26	6.00	15.06
20日	月	つちのと	一白	朔一六時〇六分	朔	友引	あやぶ	危	十し	6.23	17.27	6.35	16.00
21日	火	かのえ	いぬ	二黒	二	先負	なる	室	●	6.22	17.28	7.10	16.46
22日	水	かのと	み	三碧	三	佛滅	おさん	壁	百事よし	6.21	17.29	8.12	17.29
23日	木	みづのえ	ね	四緑	四	大安	ひらく	奎	天おん	6.19	17.30	9.09	18.32
24日	金	みづのと	し	五黄	五	赤口	とる	婁	天おん	6.18	17.31	10.06	19.44
25日	土	きのえ	とら	六白	六	先勝	たつ	胃	くゑ日	6.17	17.32	11.06	20.53
26日	日	きのと	う	七赤	七	友引	のぞく	昂	神よし	6.16	17.33	12.06	22.00
27日	月	ひのえ	たつ	八白	八	先負	みつ	畢	大みょう	6.14	17.34	1.06	23.08
28日	火	ひのと	み	九紫	九	佛滅	たいら	觜	ぢう日	6.13	17.35	2.06	24.16

※「海上保安庁図誌利用第二〇二二〇三〇二二号」
※東京・晴海の満潮・干潮の時刻は海上保安庁刊行の「令和五年潮汐表」から採用したもので、異常な気象の影響は考慮していません。
※行事・休日・祭りは変更になる場合があります。事前に関係諸団体に確認ください。

プレゼントするならわしを
まねて、女性から男性に
わすちコレットなどが盛
んに売られるようになった。
〔祭〕「節分」は、本来は
四季の移り変わる時、こ
とをいうのであるが、と
くは立春の前日、地方によ
っては旧暦の大晦日(おみ
そか)として、それぞれ伝
統ある行事が行われている。
一般的には「福は内、鬼
は外」と福豆(大豆の炒つ
たもの)をまき、この豆を
年齢の数(地方によっては
一粒多く)だけ食べる厄よ
けがある。終(ひいらぎ)の
枝にイワシの頭をさしたり、
ニンニクなど強い臭気のある
ものを添え「邪気」よけ
を行う風習もある。福豆を
まき悪鬼を払うので追儺
(おにやらい)といひ古くか
ら神社仏閣でこの儀式は
年男により行われている。
十一日は「建国記念の日」
として、国民の祝日になっ
ている。
二十三日は「天皇誕生
日」である。令和の年号に
ふさわしい天皇家のご繁栄
をお祈り申し上げる。